

ヤクルトに息づく想い

ヤクルトの創始者で医学博士の代田 稔が京都帝国大学(現在の京都大学)で医学の道を歩みだしたのは1921年。その当時の日本はまだ豊かとはいえず、衛生状態の悪さから感染症で命を落とす子どもたちが数多くいました。そんな現実にも胸を痛めていた医学生時代の代田は、病気にかかってから治療するのではなく、病気にかからないようにする「予防医学」を志し、微生物研究の道に入りました。そこで乳酸菌が腸の中の悪い菌を抑えることを発見、強化培養により生きたまま腸に到達させることに成功しました。それが、今日「乳酸菌 シロタ株」と呼ばれる「ラクトバチルス カゼイ シロタ株」です。その後、代田は、生きて腸内に到達し、有用な働きをする「乳酸菌 シロタ株」を、一人でも多くの人々に摂取してもらうため、有志とともに安価でおいしい乳酸菌飲料として製品化しました。こうして1935年、乳酸菌飲料「ヤクルト」が誕生しました。世界の人々の健康を守りたい。代田 稔の情熱と発想、飽くなき探究心は、今も、脈々と受け継がれています。

ごあいさつ

どんなときも、皆さまの健康を支えていくために。
商品やさまざまな取り組みを通じて
お客さまと社会のためにできることを考え続けます。

ヤクルトは、事業に関わりが深く特に重要と考える3つの領域「健康」「地域社会」「環境」を中心として、世界中で持続可能な社会を実現するための取り組みを進めています。

2020年、私たちの生活は新型コロナウイルス感染症により一変しました。今、私たちは、お客さま、従事者の安全を守り、社会を支援するためのさまざまな取り組みを世界中で展開しています [▶ P.9](#)。

こうした状況で私があらためて強く意識したのが、代田イズムの一つ「予防医学」です [▶ P.2](#)。もともとヤクルトは、感染症で命を落とす子どもたちを救いたいという代田 稔の想いから生まれた企業です。確固たる研究に基づく商品や、さまざまなサービスの提供をとおして、人々の健康で楽しい生活づくりに貢献するという事業そのものがCSRであり、SDGs [▶ P.7](#)の各目標への貢献に深く関連していると考えています。

状況は刻々と変化することが予想されますが、今後も、商品やさまざまな取り組みを通じてお客さまと社会のためにできることを考え続けます。そのために、引き続きお客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまのお声にしっかりと耳を傾け、CSR活動を発展させていきます。

代表取締役社長 **根岸孝成**



原点 代田イズム

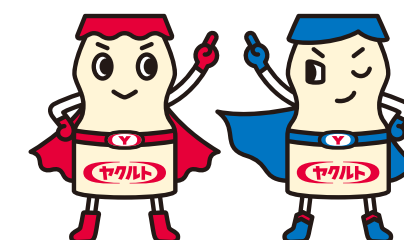
ヤクルトでは、創始者である代田の考えを「代田イズム」と呼び、現在もすべての事業の原点としています。

創始者
医学博士
代田 稔
(1899-1982)



Contents

- 01 ヤクルトに息づく想い／ごあいさつ
- 03 数字で見るヤクルト
- 05 ヤクルトの事業活動とSDGs
- 07 ヤクルトのSDGsアクション
- 09 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対するヤクルトの取り組み
- 10 早わかり! ヤクルトのCSR活動
- 11 特集1 健康 健康経営の取り組み**
従事者の元気が会社の未来をつくる
- 13 特集2 地域社会 ベトナムヤクルト**
地域に密着した健康づくり活動を推進
- 15 特集3 環境 水資源の保全**
限りある水資源を守るために
- 17 CSR調達の取り組み
サプライチェーン全体でCSRを推進



みんなのおなかの平和を守る
おなかの味方ヤクルトマンと
ヤクルトマンブルー